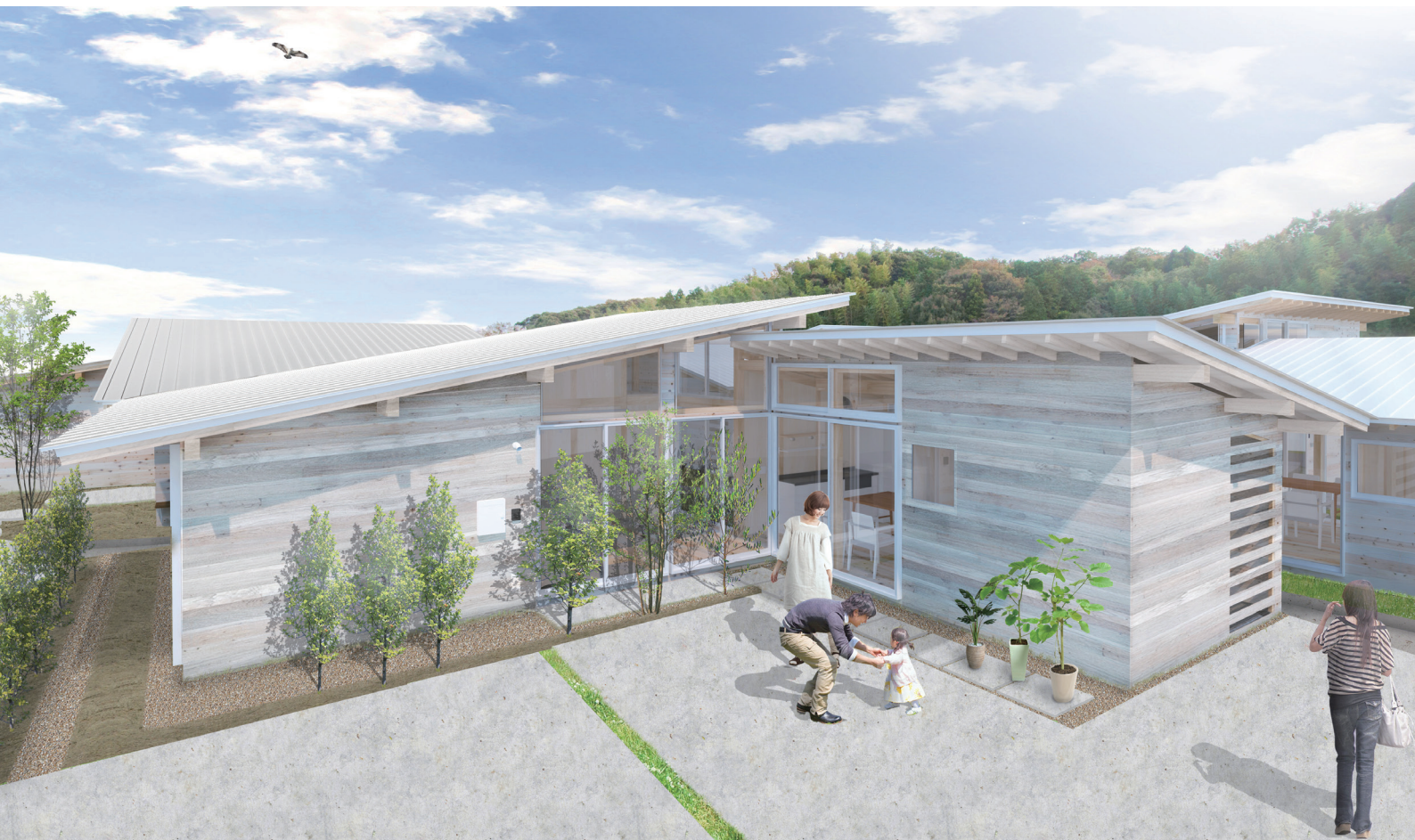


# AWAZUKU HOUSE



## 大きな空、木のかおり 人にやさしい平屋の暮らし

自然豊かな里山、静かな内海、  
ゆるやかにカーブする小川のせせらぎ、  
愛知県額田郡幸田町。  
温暖な気候に恵まれたこの土地で  
あたらしい暮らしをはじめ家族のための  
賃貸住宅。

こだわりに包まれた4棟の平屋が  
光と風をとりこんで、人と人をつなぎ  
住む人それぞれの心地よさに  
寄り添います。

(2020年2月完成)



「AWAZUKU HOUSE 物語」配信中

図面、内観CG画、動画で「AWAZUKU HOUSE」を詳しく紹介。  
立地/設計/こだわりのポイント/AWAZUKU HOUSEができるまで/ほか

# AWAZUKU HOUSE

## オーナーの思い

オーナーは東京在住で、愛知県の実家には両親が健在です。実家の敷地のうち、約70坪に両親が住む二階建ての家がありますが、残りのスペースは古い平屋が隅に建っただけであとは更地でした。夏になると雑草が生い茂って手入れも大変。今後この敷地をどうしていくかが課題でした。

そこで2017年の夏、ここに賃貸住宅を建てることにしました。検討するにあたって、オーナーは以下のようなことを実現したいと考えました。

### ①コミュニティが自然発生するような場

地震や台風などの自然災害時に、最も頼りになるのはご近所同士の助け合い。これからますます大切になるでしょう。そこで、プライバシー最優先の都会マンション型ではなく、つながり重視で一体感を持った住宅を開発したいと考えました。

建物の外観だけでなく暮らしぶりも調和していること、そして住民同士の交流が自然発生するような場になるようにとの思いがあります。

### ②自然を取り込む

自然がまだ残っている土地なので、厚い壁などで覆って自然に対抗するのではなく、日光や風などを室内に取り込んで、自然を感じられるようにしたいと思いました。

また、建物自体も自然素材を基本とし、室内にいながらも自然に囲まれているような実感がある建物を目指しました。

### ③のびのびとゆったり過ごせるスケール感

周囲に主張し過ぎず、環境に溶け込みやすい建物。のびのびしてゆったりできるようなスケール感を大事にしたいと思いました。

### ④土地の歴史を残す

この土地はオーナーにとって、子供時代を過ごした大切な場所です。今回、姿は大幅に変わりますが、所々、何らかの形で記憶の断片を残したいと思いました。



敷地全体の立体模型。奥の2階建ての家屋はオーナー両親宅。

## 建築家との出会い

オーナーはそんな思いを実現してくれるような建築家を探しました。地元在住の建築家が望ましいのですが、あいにく知り合いはいません。そんな頃、書店でたまたま建築専門誌「新建築」2017年8月号(集合住宅特集)が目に入りました。その中に、実家からそう遠くないところの建築事務所の作品が掲載されていました。それが、studio velocity 一級建築事務所(代表:栗原健太郎)でした。

## 建築家が感じ、考えたこと (一問一答)

建築家の役割は、オーナーの思いを実現させるべく、様々な制約の元で設計・監理を担当することです。ほぼ2年半に及ぶこの建設プロジェクトの過程で、どのようにオーナーの思いを受けとめ、形にしていっていったのか、建築家自身の思いなどを質問してみました。

Q 初めて建設予定地に来たとき、  
どのような印象を抱きましたか？

A 市街地から少し離れた、お寺や田畑、カーブする小道や小川、生垣が印象的な、自然豊かな落ち着いた場所でした。自然豊かな地域なので、(建物や区分だけを貸すよりも)、土地付きで「環境を貸す」のが合っているのではないかと思います。

Q 施主の要望がいろいろ出たと思いますが、  
どのように解釈しましたか？

A 一般的にはアパートやマンションの建設に向かうだろうところ、豊かな地域性を反映したゆとりのある暮らしが作りたいたいとのことで、場所の立地・伝統文化・地域性などを複合的に考えていっちゃったのがすぐに感じ取れました。おそらく、生まれ育った土地に対する敬意と改変とが、併存した思いだったのではないかと思います。ここでしか実現できない生活にしたい、それは地域と繋がることの先にしかないだろうと思いました。

Q 設計する上で、こだわった点は？

A 周りの環境で特にいいなと思ったのが、「きれいな裏山」「カーブする小道や小川」「生垣がつくる道の風景」「敷地に残っていた古井戸」などでした。それらをどのように敷地内の生活の豊かさに結び付けられるか、を考えていました。



オーナー両親宅の2階から里山を臨む風景。  
右の瓦屋根の平屋は古くからこの土地に住む顔なじみの隣家。



敷地全体の図面。4棟が接する中央部には敷地内路地と、芝生と樹木が植えられた小さな緑地があります。  
(Webサイト「AWAZUKU HOUSE 物語」にて拡大図面を閲覧可)



古材を使ったベンチ



敷地内路地と緑地

全ての棟がロフト階を持っており、そのフロアの窓からは裏山が見えるようにしています。そのために、敷地内の棟同士がロフト階の視線を邪魔し合わないように、棟の高さや位置や屋根方向が決まっています。

古井戸の使用水やそれぞれの屋根の雨水は、敷地内を張り廻る「水路」によって排水されます。近くを流れる小川と古井戸の地下水を関連付けたかったのです。古井戸は有事の際、断水時の応急水でもあります。(「こだわりのポイント」参照)

敷地を囲っていた生垣は撤去後に隣の畑に移植しており、最後に敷地内のそれぞれの場所に再移植されます。生垣は動線を促し、各棟のプライバシー確保に役立ちます。

Q どのように住んでもらいたいですか？

A 住まれるそれぞれの家庭ごとの違った物語がありますので、思い思いに過ごしていただきたいです。古材利用のベンチや古井戸をぜひ使ってください！

各家庭が固有のスペースを持ちながらも、敷地内を共有して相互扶助的に暮らしていけたら素晴らしいと思っています。

Q 20年後のAWAZUKU HOUSEは、  
どのようになっていると妄想しますか？

A 夫婦で住んだ家庭に新たな家族が誕生して、中学生になっているころ。AWAZUKU HOUSEを原風景として巣立っていくころ。

Q 建築家の立場で、  
AWAZUKU HOUSEを一言で表現するとしたら？

A 自然にいろいろな人の人生の下地になっていく、「空気や土のような存在」になっていたら素晴らしいです。

栗原健太郎 (studio velocity 一級建築士事務所)

石上純也建築設計事務所を経て、2006年当事務所を設立。

名古屋市立大学 芸術工学部建築都市デザイン学科

非常勤講師 (2016年～)

第29回すまいる愛知住宅賞 愛知県知事賞・愛知県森林協会会長賞

第25回愛知まちなみ建築賞 受賞

2016 JIA (日本建築家協会) 新人賞

日本建築学会 作品選集 新人賞

日本建築家協会 東海住宅建築賞 優秀賞

## こだわりのポイント

### ■人にやさしい平屋

平屋はどこにいても家族の気配を感じやすく、動線も水平移動だけで段差もないので安心です。

4棟すべてが平屋なので、空が大きく見えます。その利点を活かすためにも、電線やケーブルが敷地内の上空を通らないように、すべて地下に埋めました。

### ■開口部を広くとり、より開放的に

景観を楽しめ、光や風をできるだけ取り込めるように、開口部を出るだけ多くとりました(外壁の45%が窓です)。窓は全て透明な二重サッシです。

### ■部材や塗装もできるだけ天然素材に

建設資材には塩ビシートなどの化学系素材はできるだけ使用せず、木材を最大限に使用、しかも予算の許す限り無垢材にこだわりました。

### ■住民みんなのための井戸

昔使っていた井戸があり、水質検査もパスしたので復活させました。いつ起きてもおかしくない自然災害時に、水を絶やすことのない自前の井戸があることは安心です。普段から住民の皆さんに使っていただき、「井戸端会議」ができれば楽しいと思います。

### ■隣接する畑(菜園)を開放

西側の道路を挟んだ向かいにオーナーの両親の畑があります。今は主にオーナーの母が自家用の野菜を作っていますが、希望者には一画を無料でお貸しすることも可能です。

### ■古材で製作したベンチ

4棟の敷地は、オーナーの実家の離れの古屋があった場所です。直前まで建っていた古屋を解体した時に、残しておいた梁や柱でベンチを製作しました。各棟の壁に1〜2基を据え付け、敷地中央部の緑地に5基を設置。屋外での一服、住民同士の交流などに使っていただけたらうれしいです。

### ■雨樋はつけない

4棟で8枚の片流れの屋根がありますが、軒に雨樋はできるだけつけないことにしました。樋が詰まると掃除が大変です。雨樋がない方が屋根がすっきりと見えます。

### ■キッチン設備はシンプルかつ機能的に

キッチンの使い方はそれぞれ千差万別。決定するまで多くの方に意見を求めました。そして決める基準は、シンプルさと機能性、そして健康・安全としました。たとえば、できるだけ素材から調理ができるように、グリルもつけました。

### ■棟ごとにカスタマイズした洗濯物干し

使用しないとき・使用しない人は簡単に取り外せる、隠せる物干しを各棟に造り付けにしました。ただし、棟ごとに日当たりや道路(公道)との位置関係、建物の形状などが変わるため、物干しを設置する場所や設置の仕方はそれぞれ異なります。

# 海と山に近く自然に恵まれていながら、 主要都市への通勤圏内

## 周囲の環境

AWAZUKU HOUSEから車で10分程度にある三河湾は、知多半島と渥美半島に挟まれた静かな内海(国定公園に指定されています)。南側を海に面し温暖なこのあたりは、かつては漁港や風光明媚な温泉地がたくさんありましたが、近年はマリリゾートとして開発が進んでいます。2001年まで世界的ヨットレース「アメリカズカップ」に挑戦する日本チームの練習基地が置かれ、今でもヨットレースが盛んです。

海岸沿いには、歴史ある蒲郡クラシックホテルや複合型リゾートのラグーナテンボス、中高一貫でリーダーを育てる海陽学園などもあります。

AWAZUKU HOUSEは、かつてお城があった(櫓下、裏門、苅谷門といった地名が残る)里山と、蛇行する川とお寺に挟まれた自然が豊かな場所にあります。

この周辺には縄文時代からの遺跡が多数あり、また小高い山や丘の上にはいくつもの古墳があります。古くから人間が居住しやすい環境だったのでしょう。

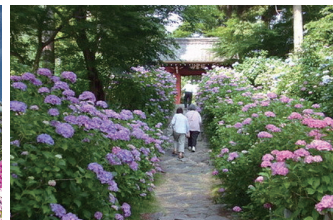
## 交通アクセス

- 三河湾まで約2.5Km
- 西尾、蒲郡、岡崎を結ぶ道路の交差路(東三河と西三河の接点)産業道路(県道383号線)と国道248号線の交点
- 最寄りのJR三ヶ根駅からJR東海道本線を使つての所要時間
  - ・岡崎駅まで **9分**
  - ・刈谷駅まで **24分**
  - ・豊橋駅まで **21分**
  - ・名古屋駅まで **49分**
  - ・東京駅まで **最速1時間52分**(豊橋駅から新幹線ひかり号利用)
  - ・新大阪駅まで **最速1時間30分**(名古屋駅から新幹線のぞみ号利用)

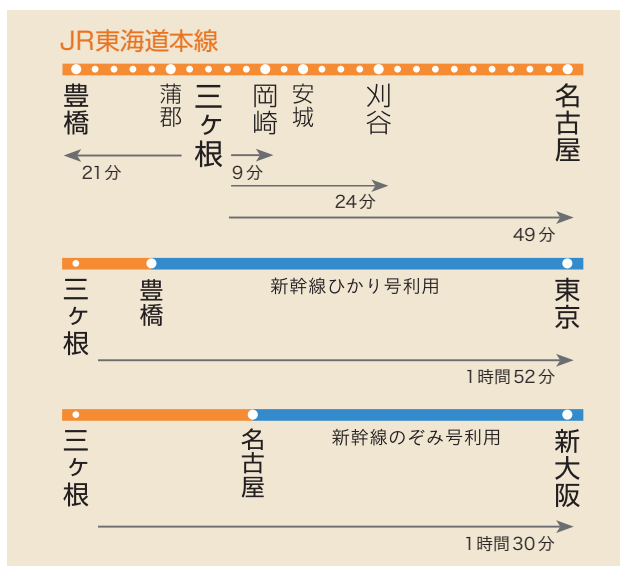
三河湾に浮かぶ「竹島」。自然そのままの姿が残り、島そのものが国の天然記念物に指定されています。



「蒲郡クラシックホテル」。庭園は約3,000本のつじが花を咲かせます。



車で6分程度にある「本光寺」。三河のあじさい寺として有名です。



## ■愛知県額田郡幸田町大字深溝海谷16



●お問合せはこちらから

**ミニミニFC蒲郡店 丸七住宅株式会社**

〒443-0056 愛知県蒲郡市神明町8-10 オリビル1階

**TEL: 0120-07-1642**

※空室情報の確認や詳細など、どうぞお気軽にお問合せください。